

ダンドタムラソウ *Salvia lutescens* Koidz. var. *stolonifera* G.Nakai

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、補正+1 (シカ食害)、総点 14。自然度の高い森林に依存する植物で、分布域が狭く、愛知県はその西限にあたる。県内の自生地も少ない。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 25~50cm になり、花後倒れて途中から根を出し、茎の基部からも長い走出枝を出す。葉は対生し、大きいものは 2~3 対で茎の中部につき、1~3 回羽状複葉、小葉は卵形~倒卵形、長さ 1.5~3cm、先端は鋭頭~鈍頭、基部は広い、または狭いくさび形、辺縁には欠刻状の鋸歯がある。花期は 6~8 月、茎や枝の先に長い穂状の花序を作る。花はややまばらに輪生し、がくは長さ 5~6mm、花冠は淡青紫色、長さ 1cm 内外、筒部内面の中央に輪状に毛があり、雄ずいは曲がらず、花外に突き出す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (永田芳男 s.n., 2010-7-19)、4 津具 (芹沢 78754, 2003-8-24)、6 設楽西部 (芹沢 83176, 2008-9-6)。

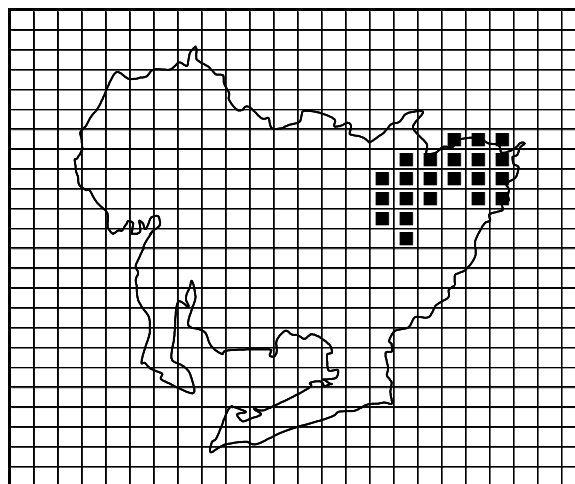
【国内の分布】

本州 (愛知県、岐阜県、長野県および伊豆半島の一部)。

【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は少ない。ただし栄養的に繁殖するため、ある場所では群落を作ることもある。段戸山では、2012 年に最大の群落があった場所が伐採された。その一方で、被陰により衰退している場所もある。ニホンジカによる食害も目立つ。

【保全上の留意点】

沢沿いの森林を保全することが必要である。ただし、若木が茂りすぎて光条件が悪化した場所では、樹木を部分的に除去する必要もあると思われる。

【特記事項】

設楽町段戸山で鈴木釘次郎氏が 1933 年 6 月 21 日に採集した標本をもとに記載された植物で、基準標本は京都大学総合博物館 (KYO) に保管されている。ナツノタムラソウ (広義) に含まれる種内分類群間の関係については、更に分類学的な検討が必要である。

【関連文献】

保草本 I p.169, 平草本 III p.81, 平新版 5 p.140, SOS 旧版 p.77, SOS 新版 p.23,25.